

**文化庁長官が被災した小峰城跡を視察  
国史跡として将来に胸を張れる修復を**

4月20日、文化庁の近藤誠一長官が、東日本大震災で被災した小峰城跡の石垣崩落か所を視察しました。近藤長官は「小峰城の修復は、復興のシンボルと位置付けられることから、国史跡として将来に胸を張れる修復をする必要がある。国としても時間と費用を惜しまず支援していく」と話しました。修復作業は現在、崩落原因を究明するため、細かな観察と記録を取りながら、本丸南側の崩落石垣の石材撤去を進めています。



▲被害の状況を興味深く視察する近藤長官（中央）

**自治総合センターのコミュニティ助成事業  
宝くじの助成で地域の防災体制を強化**

市では、みさか防災会（直江和正代表）に対して、(財)自治総合センターのコミュニティ（宝くじ）助成事業を活用し、防災活動に必要なテントや発電機などの各種資機材を交付しました。みさか防災会は、平成15年の結成以来、地域がひとつになって防災活動に取り組んでいます。直江代表は「交付された資機材を有効に活用し、防災体制の強化に努めます」と話しました。この助成による自主防災組織への資機材の交付は、13団体となりました。



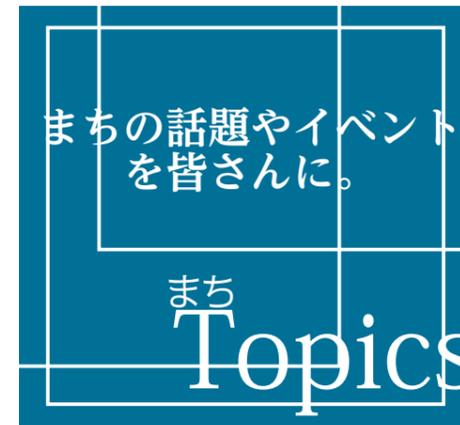
▲みさか防災会の皆さん

**がんばれ！福島の農業・「絆」で田植え  
田植え体験で福島の農業を応援**

5月4日、東下野出島地区の水田で、神奈川県大和市の「田舎を楽しむ会」のメンバー15人が田植を体験しました。このイベントは野出島地域活性化プロジェクト（鈴木勝美会長）が、県外消費者に農業体験をしてもらおうと、4年前から開催しています。鈴木会長は「昨年は原発事故の影響で参加者がいませんでした。県外消費者の皆さんから参加の希望があり、また開催できたことで、福島の農業復活の兆しに希望を見出した思いです」と話しました。



▲大和市の田舎を楽しむ会の皆さん



**昭和の時代を再現 第4回大昭和祭り  
桜が舞う晴天のもと懐かしい雰囲気を楽しむ**

4月29日、市役所・市民会館・楽蔵の3会場を舞台に「第4回大昭和祭り」が繰り広げられました。震災の影響から2年ぶりの開催となった今回、桜が舞う穏やかな日差しの中、親子連れなど大勢の人出でにぎわいました。市役所会場では、ミニSLの試乗や昔の遊びが体験でき、市民会館会場の特設ステージでは、マジックショーや白河旭高吹奏楽部の演奏が披露されました。また、3会場をつなぐ通りにはクラシックカーが展示されたほか、バナナのたたき売りや人力車、ちんどん屋の行進が見られ、来場者は昭和のレトロな雰囲気を楽しんでいました。



▲ベーゴマを体験

**震災復興に向けた連携・協力に関する協定を締結  
放射線教育で本市を支援**

5月10日、国立大学法人徳島大学（徳島県徳島市）で「震災復興に向けた連携・協力に関する協定」の締結式が行われ、徳島大学と本市が協定を結びました。同大学は、昨年11月に福島県を支援するため「原子力災害における住民支援プロジェクト」を立ち上げ、本市では学校周辺の土壌汚染調査や中学生・保護者を対象にした放射線に関する学習会の開催、市民への除染の指導などご協力いただきました。今後も、放射線の正しい知識の普及にご支援をいただきます。



▲協定書を披露する徳島大学の香川征学長と鈴木市長